



南 仲坊
坂崎重盛

見習 江の島の元祖や本家って、何があるんですかね。
弟子 ま、行っただけが楽しみですよ。
南 ちょっとのどが渴いてきた。
坂崎 のど飴ありますよ。
南 痛いんじゃない、渴いたんだから(笑)。
坂崎 はいはい、ビールね。はい、かんぱーい。
一同 かんぱーい。
弟子 いつもより、ちょっと小声になっちゃいますね。
見習 昼間の東海道線、ビジネスモード。雰囲気マジメすぎます。席を向かい合わせにして飲んでるのなんて、われわれだけですもん。
南 こうすると、背面にテーブルが回っちゃうのが欠点だね。これ、向かい合わせにするなってことかね。
坂崎 窓際のデッパリも細い。ここにも何も置くな。
見習 ビールも置くな！
南 つまみも食うな！ ホタテは別。
坂崎 袋が長細くて、置きやすいからね。
南 江の島で昔、猫に通信機なんかつけて、なんかした事件があったじゃない。
弟子 猫の首輪に取りつけたSDカードを使って、第三者が犯行予告を出しているように見せかけたとかい

「元祖」「本家」と名乗る店と、そんな店のある懐かしい町を、元祖愛好家・南仲坊と本家半可通・坂崎重盛が訪ね歩く「三ッポンの元祖・本家の町めぐり」。弟子と見習いを引き連れて、もっとうでもいいヤの珍道中……。第九回は、冬の絶景・江の島編です。

あの猫に出会った場所

坂崎 やっぱ、下ネタってよくないと思うんです。半可通見習(以下、見習) 何ですか、いきなり。
坂崎 いや、いままでの町めぐりで、『望屋』にふさわしくない発言が多少あったかなと思って。
愛好家弟子(以下、弟子) 過去に八回もやってきて、いまごろそう思うに至ったんですか。
坂崎 ところで、やっぱり江の島は、冬ですよな。
見習 また、いきなり。
坂崎 夏に行く人の気持ちが変わらない。よく言うじゃない、「秋の宮島、冬の江の島」って。
弟子 何か大きな勘違いをしている気がします。

うパソコン遠隔操作事件ですよな、たしか。
見習 江の島には猫が多いっていいですけど、まさかそんなふうに使われてしまうとは。
南 あの猫に出会ったんです、江の島で。
坂崎 写真に撮ったの？
南 たぶん撮った。犯人にもなったしね。
坂崎 猫の本人にはなったの？
南 猫には、なっていない。
見習 動物だと、パンダにはなっていましたよね。
南 アザラシのタマちゃんもなりました。
見習 あまりに世間がタマちゃん、タマちゃんと騒ぐから。
南 ええ、皆さん、ほっとしてください。ってパンダのときも……。
(以後、激しい下ネタの応酬)
弟子 あのー、もうちょっと原稿にできそうな話をしてもらえますか？
アナウンス 次は、藤沢です。
弟子 あ、降ります。もういいです(冒頭の発言は何だったんだ、いったい……)。
見習 藤沢からは、どうするんですか？